

郷土史家育成と地域振興

島根地域国際センター予算「石見の郷土史と観光を考える」

「石見の郷土史と 観光を考える」

本研究テーマ「石見の郷土史と観光を考える」は島根県立大学地域政策学部准教授・濱野靖一郎を代表として、同准教授・田中輝美、専任講師西嶋一泰、国際関係学部教授・中村圭、同准教授深串徹、客員研究員・塚本英樹の6名で構成された企画です。

本研究は、島根（特に石見）の郷土研究と観光を結びつけ、「地域づくり」に取り組むのが狙いです。地域住民が主体的に「石見地方の特徴」に向き合い、「石見の文化・資源」を再発見していくための基盤を整えるものと言えます。

石見には『郷土石見』という他の地域に誇る郷土史研究史があります。近年会員の高齢化もあり、従来年3冊出版だったのが年1冊となっております。また、高等学校「探究活動」を代表に、学校で「地域や社会との関わりを重視」した調査研究を生徒に指導されている先生の中には、郷土の歴史や偉人、文化といった素材に悩まれている方も多いと思います。本企画は、大学が地域研究のハブになり、こうした状況もあわせて解決することを目指したものです。ております。

研究会を2つ設置し、高等学校の教員や司書、学芸員や教育委員会等から人員を募集し、活動してきました。また、12月21日に「いわみ国際シンポジウム・鉄道と観光による地域振興」を開催いたしました。

本研究は、現在島根県立大学で設置準備がはじまりました。「石見」を中心とする研究所設立における基礎的・準備活動ともいえるものです。ここから地域の公共財としての研究所・郷土史家の育成・郷土のこれからをみんなで考える営みへと結びつけていくことがこれからの展望です。

研究会①

『佐々田懋日記』を読む

(明治期の石見と政治史研究)

石見地方を代表する大地主・名望家であり、第一回帝国議会選挙で衆議院議員となった、「佐々田懋（すすむ）」という人物に注目し、彼の明治14年に書いた日記を参加者の皆さんと読んできました。



佐々田 懋（1855年～1940年）
石見国那賀郡木田村の庄屋の家に生まれる。島根県多額納税者。佐々田合名会社社長。第1回～3回帝国議会議員、貴族院議員。

現在、浜田市中央図書館が所有している日記の直筆原本は崩し字ですが、浜田市市誌編纂室職員・浜田高等学校教諭であった故・藤田亨氏によって楷書で文字起こしされた資料を使用しております。

講師は、佐々田懋顕彰会・服部之総顕彰会で昨年度の講演をした、法政大学非常勤講師・島根県立大学客員研究員の塚本英樹、司会を濱野が担当しております。この研究会はZOOMによるオンラインで、毎月第四水曜日の19:00～21:00の時間帯に開催しております。今後もこの研究会は継続していきます。

第一月

一日 雨

昨日朝来後雨霏々トシテ后二時
ヨリヤシク快晴ト赴ケリ而ノ余ハ
顯徳公ノ喪中ニ年數モテ迄明迄
延期シタレハ常ノ如ク行キ行キ
序ホ一家ハ皆モ別モ別外ナルカ
退テ他ヲ回望スレハ年始賀者亦
西ニ寄リテ路上ニ遊匠ノ式礼ス
ルハ景モ勇マシカリキ我レモ年
序カ一ウカ忌格セルヲ以テ他モヤレキ
序リタルニヤシク年終ハ此ノ内ハ
元朝ノ景況大ニ寂然タルカトシ
蓋シ家林ノ不収獲ニモヤレキ

二日 晴

坂根孫六令中より九原と米表
持来ヒシム
上杉と山崎若松松と小松と携へ
住御仲末より勘外末所ス
本日九日暮迄米表旦の旨有り
顯徳院殿才四七日に在り
保寧寺知尚安寺寺僧末著
蓋シ顯徳より四七。仙多ナク

藤田氏書き起こしノート

藤田氏書き起こしノート

己号 明治十四年度 世に秘史を算定加
庚号 明治十四年度 世に秘史を算定加

第七回藤田氏會 自明治十四年四月廿日 至明治十四年五月廿日

一 議場選考

菅野宗吉 藤田氏會

菅野宗吉 同松陰慶安堂孫三郎
同子傳貞 同松陰三郎 同松陰一 神田清一
今村實信 今村三郎 今村四郎

己年中日誌

重徳堂 探是弄史

第一月

一日 雨

本日朝来微雨霏々トシテ石馬ヨリ少シク快晴
ニ赴ケル。而シテ余ハ顯徳公ノ喪中ニ年數モテ迄
明迄延期シタレハ常ノ如ク行キ行キ序モ一家
ハ皆モ別モ別外ナルカ如シ
退テ他ヲ回望スレハ年始賀者亦西ニ寄リテ路上
ニ遊匠ノ式礼スルハ景モ勇マシカリキ我レモ年
序カ一ウカ忌格セルヲ以テ他モヤレキ序リタル
ニヤシク年終ハ此ノ内ハ元朝ノ景況大ニ寂然
タルカトシ蓋シ家林ノ不収獲ニモヤレキ

二日 晴

坂根孫六令中より九原と米表携来ヒシム
上杉と山崎若松松と小松と携へ住御仲末より
勘外末所ス本日九日暮迄米表旦の旨有り
顯徳院殿才四七日に在り保寧寺知尚安寺寺僧
末著蓋シ顯徳より四七。仙多ナク

三日 晴

寛治ハ三郎墓参トシテ参上ス。前ハ時墓参
保寧寺安樂寺和尚心僧モ歸去
松原参入。波田ハ派遣シシム
本日ヨリ新ハ顯徳公ノ六日ハ松原内書寫等

神楽文化研究会の概要と設立目的

島根県立大学から発信する、地域資源「石見神楽」の新たな学術・実践プラットフォーム



1. 設立背景と体制

島根県立大学（浜田キャンパス）の地域政策学部・国際関係学部教員有志が中心となり設立。

地域固有の資源である「石見神楽」を、単なる観光資源としてだけでなく、学術的かつ実践的な探究対象として再定義するプロジェクト。



2. 活動の目的

知の集約と融合

大学教員が持つ「研究知見」と、地域の実践者（舞い手・職人）が持つ「現場知見」を対等に融合させる場の創出。

地域課題への接続

神楽を通じた地域社会の課題発見と解決（地域連携）を目指す。



3. 将来ビジョン

「研究所」化

将来的な大学付置研究所への昇格、および外部予算獲得による持続可能な体制構築。

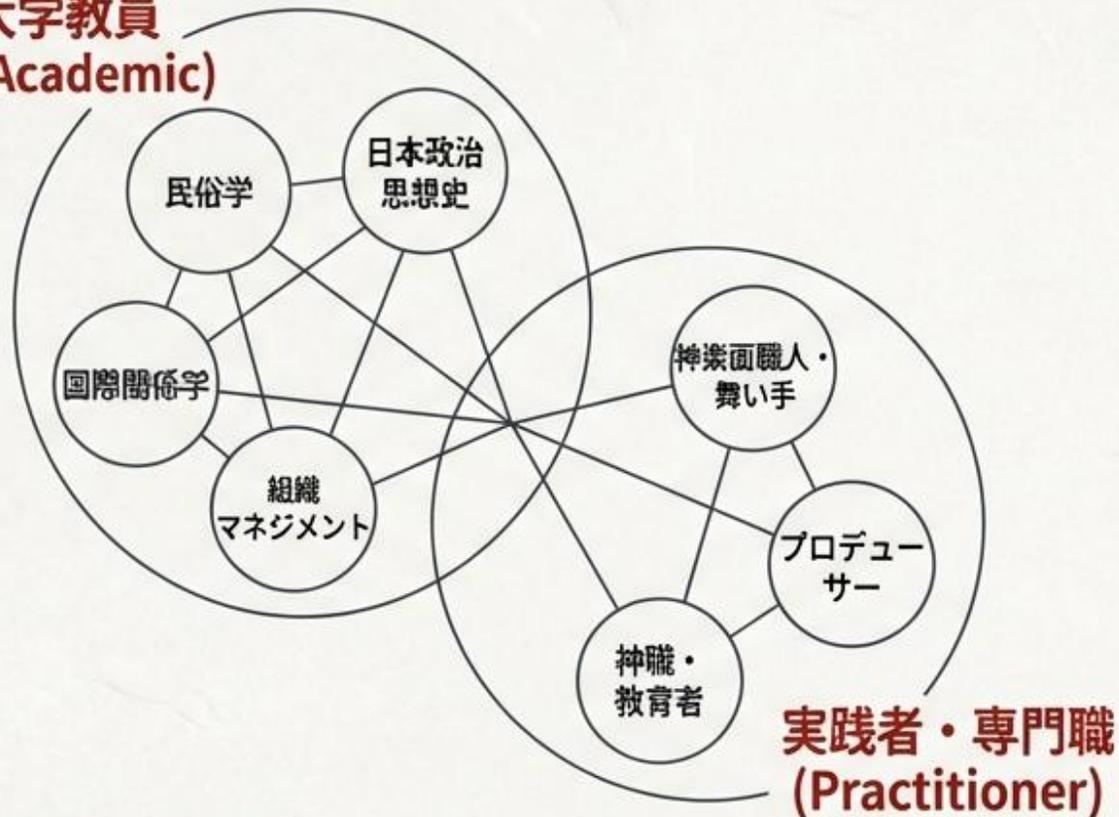
次世代アーカイブ

映像記録にとどまらず、地域の生活史やジェンダー観の変容を含めた包括的なデジタルアーカイブの整備。

多様なメンバー構成と研究活動

産学の垣根を超えた対話と、多角的な視点（歴史・ジェンダー・記録）による神楽研究

大学教員
(Academic)



運営フォーマット

- 活動サイクル：1～2ヶ月に1回の定期開催
- 形式：オンライン（Zoom）を基盤とし、対面（大学）を組み合わせたハイブリッド形式



1. 歴史と継承 (History)

既存の定説の再検証。明治期の行政文書や日記（『佐々田懋日記』等）の分析を通じた、神楽受容の実態解明。



2. ジェンダーと身体性 (Gender)

女性舞い手の参入と身体的課題（衣装・筋肉量）、組織における「排除と受容」のメカニズム、活性化事例の研究。



3. 拡張するアーカイブ (Advanced Archiving)

単なる舞の映像保存ではなく、神楽を取り巻く「町の記録」「生活の変化」を包含した、地域史としてのアーカイブ構築。

[いわみ国際シンポジウム]

鉄道と観光による地域振興



参加費
無料

要事前
申し込み

2025
12/21 日

9:30-12:30
(開場 9:00)

会場
島根県立大学 浜田キャンパス 中講義室3
〒697-0016 島根県浜田市野原町2-4-3-2

お申し込み方法
参加申し込みはフォームから
<https://forms.gle/4aYqvDF3nCpYeKtC7>
申し込み締切：12月19日(金)



基調講演

山陰の鉄道・神話・温泉と皇室

原 武史 氏

明治学院大学名誉教授
放送大学客員教授

1962年、東京都生まれ。政治学者。著書に『〈出雲〉という思想』、『「民都」大阪対「帝都」東京』（サントリー学芸賞）、『歴史のダイヤグラム 鉄道に見る日本近現代史』、『戦後政治と温泉』、『日本政治思想史』など多数。



プログラム	09:30~10:00	名古屋大学 特任助教 黄 潔 氏 専門：地域研究（文化人類学・民俗学）	「地域を跨ぐ高速鉄道網、遺産登録と 共同観光プロモーションの実践—西南中国の事例から」
	10:00~10:30	台湾致理科技大学 准教授 呉 米淑 氏 専門：観光研究・地方創生	「台湾北海岸における観光空間の形成と地方創生 —USR×SDG11統合型教育実践の一考察」
	10:30~11:00	石見麦酒 工場長 山口 巖雄 氏	「無人駅から世界へ～人と人を繋げる無人駅醸造所」
	11:00~12:00	明治学院大学 名誉教授 原 武史 氏	「山陰の鉄道・神話・温泉と皇室」
	12:00~12:30	ディスカッション	

モデレーター：島根県立大学 准教授 濱野靖一郎 ファシリテーター：島根県立大学 准教授 田中輝美

お問い合わせ先：島根県立大学 濱野靖一郎研究室 Email: s-hamano@u-shimane.ac.jp

しまね地域国際研究センタープロジェクト研究助成金事業

2025年12月21日(日)大講義室1にて、
**「石見国際シンポジウム
鉄道と観光による地域振興」**
を開催。

明治学院大学名誉教授の原武史氏の基調講演に、中国及び台湾の研究者による発表、地域企業である石見麦酒工場長の発表がなされた。

本学学生や地域住民、遠隔地からの来場者など、約百人が参加し、盛会となった。アンケート結果も極めて好評であった。

本シンポジウムは中国新聞と山陰中央新報に記事が掲載されている。

基調講演 原武史氏

- <略歴>
- 明治大学名誉教授
- 放送大学客員教授
- 自称「鉄学者」

- <主な著書>
- 『「民都」大阪対「帝都」東京』
- (サントリー学芸賞)
- 『<出雲>という思想』ほか多数



「山陰の鉄道・神話・温泉と皇室」

- ・ 柳田国男が絶賛した山陰本線の車窓が今も変わらず残っている
 - ・ 東京と出雲市を結ぶ寝台列車「サンライズ出雲」の人気
- 山陰の鉄道の観光資源としての潜在価値の高さを示し、活用を提言

鉄道維持で「鉄学者」が提言 車窓からの絶景や出雲神話 活用を 浜田で講演

地域 鉄道ニュース 島根 石見

2025/12/29 (最終更新: 2025/12/30)

鉄道に造詣が深く「鉄学者」とも呼ばれる原武史・明治学院大名舎教授（63）＝日本政治思想史＝が、島根県立大浜田キャンパス（浜田市）で講演した。山陰地方の鉄道と皇室の関わりを紹介し、JR山陰線や木次線の維持に向けて「車窓からの絶景や出雲神話のブランドを生かした取り組みを」と提言した。



山陰の鉄道について語る原名舎教授



2025年12月29日付 中国新聞
<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/765342>

朝日新聞 > 連載 > 歴史のダイアグラム > 記事

（歴史のダイアグラム）山陰本線から見える石見の海 原武史

有料記事

2026年1月17日 3時30分



📧 f X B! ...
list 0



日本海沿いを走り、浜田駅に到着した山陰本線の普通列車＝2025年12月20日、島根県浜田市、原武史氏撮影

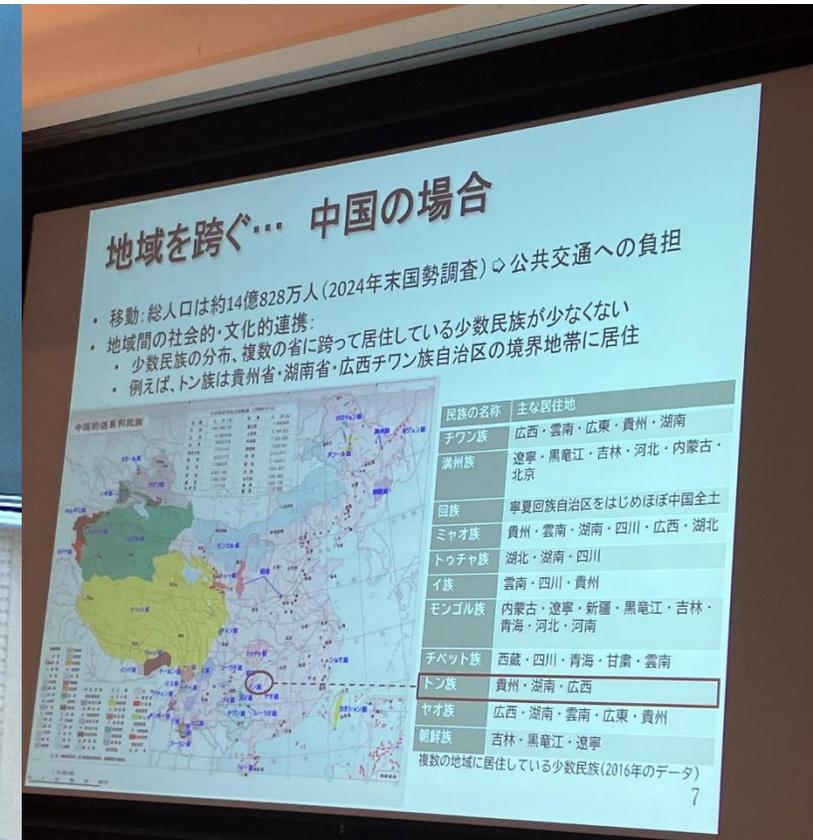
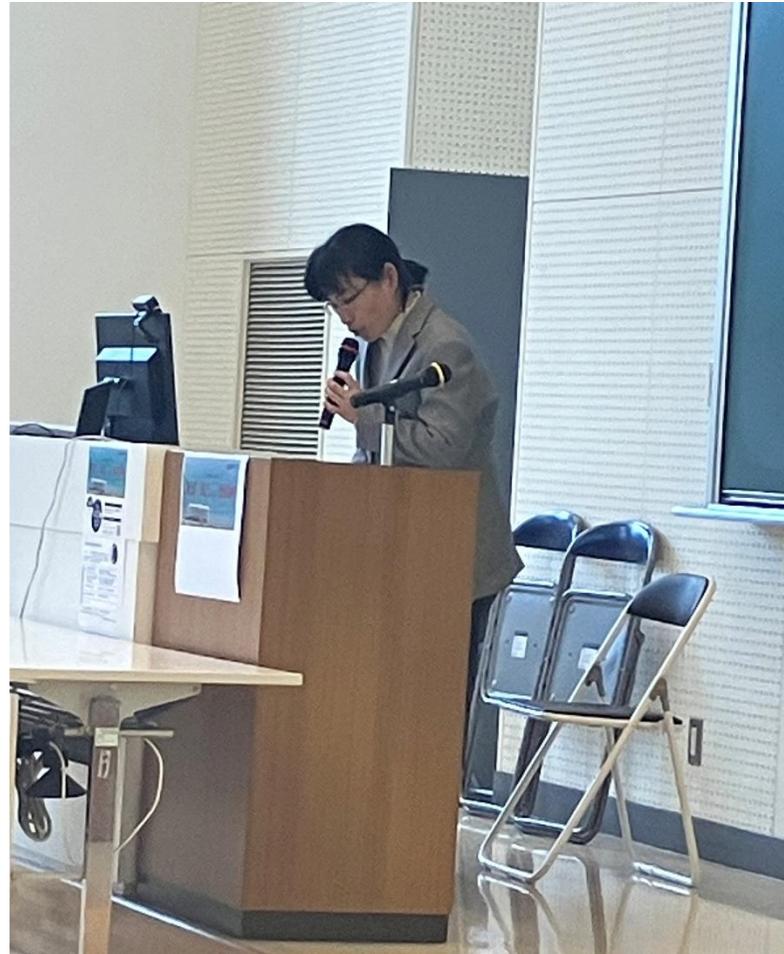
民俗学者の柳田国男は、1934（昭和9）年に「旅人の為（ため）に」と題して講演した。そのなかで自らの体験を踏まえ、海に見える鉄道の絶景区間を二つ挙げている。

一つは北陸本線の杉津（すいづ）付近。「海に臨んだ緩傾斜を見おろした眺めなどは、汽車がほんのもう一分だけ、長く止まっていてくれたらと思わぬ者...

2026年1月17日付 朝日新聞be
<https://www.asahi.com/articles/DA3S16382214.html>

1. 黄潔氏(名古屋大学特任助教)

- 「地域を跨ぐ高速鉄道網、遺産登録と共同観光プロモーションの実践—西南中国の事例から」とのテーマで報告
- 中国西南部を事例に、高速鉄道網の整備が地域を跨ぐ遺産登録や観光計画に及ぼした影響を紹介
- 他方、地域協カメカニズムやインフラの相互接続はまだ不足していることが課題と指摘



2. 呉米淑氏(致理科技大学准教授)

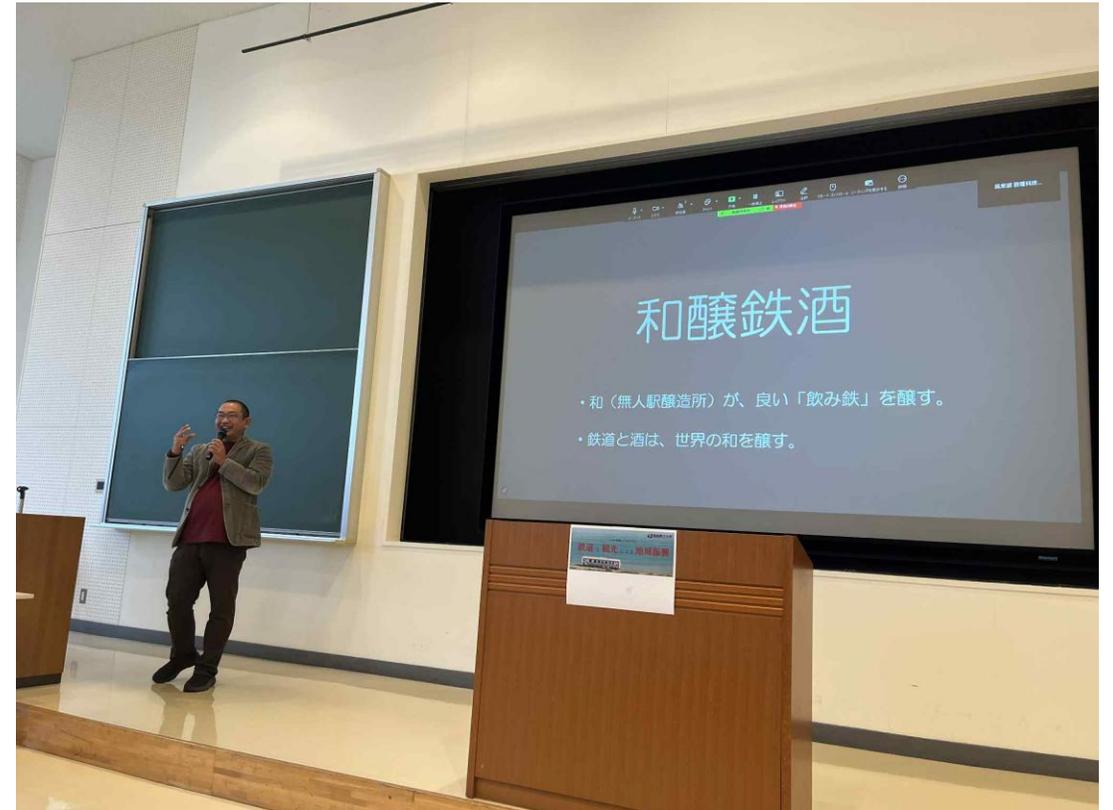
※台湾からオンラインでご参加

- 「台湾北東岸における観光空間の形成と地方創生—USR×SDG11統合型教育実践の一考察」とのテーマで報告
- 萬里区と金山区を対象に、大学の教育実践が観光空間の形成および地方創生に果たす役割を考察
- 観光を「消費」から「理解と参与」へと転換する上での意義の一方、活動継続や地域への還元の面での課題も存在



3. 山口 巖雄氏（株式会社石見麦酒）

- 無人駅だったJR山陰本線「波子（はし）駅」を、ブルワリーに改装
- 醸造所がつかれるツアーを開催
- クラフトビール列車も走らせ、400人の人が毎年駅を訪れ、宿泊するように
- 全国4776ある無人駅の活用を訴え、鉄道と酒は世界の和を醸すと提言



4. 和田 浩氏(今福線を活かす連絡協議会 事務局長)

- ディスカッションの時間を変更し、鉄道遺構研究分科会(島根県技術士会)幹事の和田浩氏に、「未成線、廃線を活用した活動」と題して、完成されずに廃線となった今福線(広浜鉄道)と、旧三江線の遺構の活用について説明していただいた。



鉄道を媒介とする地域振興のあり方

- ① 鉄道インフラ(物理的基盤)
- ② 観光空間の構築
- ③ 参与・関係人口形成
- ④ 地域再編・広域圏形成

【まとめ】

- ・鉄道は「移動装置」から「意味生成装置」へ転換する媒介装置
- ・車窓からの風景は重要な観光資源
- ・空間の再編、越境的連結、観光空間の形成、関係人口創出を同時に駆動

